

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 1 日現在

機関番号：12611

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23720075

研究課題名(和文)近代日本の伝統音楽における演奏の場についての実証的研究：箏曲演奏会を中心に

研究課題名(英文)An empirical study into modern Japanese traditional music performance: Focusing on koto music concerts.

研究代表者

福田 千絵 (FUKUDA, Chie)

お茶の水女子大学・文教育学部・非常勤講師

研究者番号：10345415

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近代における日本の伝統音楽の、演奏会を始めとする「演奏の場」の変遷を実証的に明らかにすることを目的とした。1921年から44年まで発行された邦楽雑誌『三曲』の演奏会情報を主要な史料として研究を行い、東京の三曲演奏者のネットワーク、戦争期の大日本三曲協会の活動、外地の演奏会の特色、を検討した。最終的に、演奏会を目的別に分類して考察し、1920年代から44年までの演奏会を4期に分け、邦楽演奏会の変遷を明らかにした。また、研究成果の一環として「『三曲』演奏会データベース」を作成し、公開した。

研究成果の概要(英文)：This study aims to clarify the changes in the Sankyoku performance in modern Japan. Using the Japanese music journal "Sankyoku" (1921&#8211;44) as a primary resource, the network of Sankyoku performers in Tokyo, the activity of the Dai-nippon Sankyoku kyokai during the war, and the characteristics of the concerts in "overseas territories" were revealed. Finally, this study categorized Sankyoku concerts according to their purpose and documented the changes from 1921 to 1944 by partitioning the Sankyoku concert transitions into four periods. The Sankyoku concert database is open to the public.

研究分野：音楽学

キーワード：演奏会 三曲 近代 伝統音楽 邦楽 家元制度 戦争 箏曲

## 1. 研究開始当初の背景

筆者は、本研究以前に、近世の箏曲文献、および現代の演奏伝承の研究に携わってきた。近年は、近代の箏曲家米川琴翁(1883-1969)の音楽活動について、伝記的研究、作品研究などを行った。その過程で、近代の伝統音楽について、全般的に研究が少なく、とくにどのように音楽が演奏されたのかという音楽のおかれた状況を検証した研究がほとんど見当たらないことに気づいた。

その一方で、研究を通して、近代後期に新しい「演奏の場」が創出されたことにも注目するようになった。箏曲における「演奏の場」は、近世までは、盲人男性や町の女性が箏を弾き、三味線、胡弓、尺八が加わり、料亭のお座敷のような狭い空間において少人数で演奏されるのが一般的であった。それが明治維新を機に広く開放され、おさらい会の規模も大きくなり、西洋風のホールが使用されるようになったとされている。筆者は、米川琴翁の主催した演奏会の変遷、海外演奏旅行の詳細等の調査の過程で、このような、大正から昭和にかけての演奏の場に生じた変化について、大人数での合奏、有料のリサイタルやコンクールが始まった経緯などのデータを発見していた。

また、戦後に目を向けると、専門家によるリサイタル、仲間同士のジョイント・コンサート、会派を挙げての記念演奏会、実験的なライブ・コンサート、若手による奨励演奏会、コンクール、作曲発表会などの、多様な演奏形態が定着している。このような場の多くは、戦前に生まれた演奏の場の延長線上にあると考えられ、現代の邦楽を考察する場合においても、近代の演奏の場の変化を明らかにしておくことは不可欠であると考えられる。

このような理由から、本研究では、すでに得られた知見を手掛かりに、網羅的にデータ分析を行い、「演奏の場」を中心に音楽状況を明らかにする計画を立てた。

## 2. 研究の目的

本研究は、近代における日本の伝統音楽の、演奏会を始めとする「演奏の場」の変遷を実証的に明らかにし、それにもとづいて、伝統音楽が、文化的・社会的に大きく変動した時代においてどのように伝承を継続し、活動を展開させたのかという経緯について考察することを目的とした。実証的な邦楽演奏会研究の端緒として、本研究では、箏曲を中心に演奏会記録を収集し、近代的家元制度の確立、「演奏の場」の西洋化、太平洋戦争のための芸術活動の規制、現代の「演奏の場」への道筋、の4点について考察を行うこととした。

## 3. 研究の方法

本研究は、大正後期から昭和前期にかけての箏曲に関する重要文献である邦楽雑誌『三曲』(1921-1944)を主要な資料とした。『三曲』は、京阪および九州で活動していた多くの三曲の演奏家、すなわち箏曲・地歌・尺八の演奏家が明治以降上京し、東京に定着した時期に発刊され、東京在住の多くの箏曲家が関わった。演奏会情報が多数掲載され、演奏会プログラムも年間数十点掲載されており、また演奏家の寄稿も数多く掲載されている。この貴重な記録は、これまで詳細に調査されることはなかったので、本研究では、『三曲』を中心的な資料とし、掲載されている演奏会の記録をもとに、当時の演奏会の変遷を考察することにした。

本研究では、邦楽雑誌『三曲』を主要な資料とし、箏曲演奏会に関する情報を抽出し、演奏会データベースを作成した。さらに、雑誌に掲載された演奏会に関する主催者らの言説を収集し、分析を行った。以上の演奏会に関する情報にもとづき、家元制度、演奏会の近代化、戦争の影響について考察を行い、最終的に三曲演奏会の変遷を明らかにした。

#### 4. 研究成果

研究成果を(1)『三曲』演奏会データベース、(2)三曲演奏会の変遷、(3)まとめ、に分けて述べる。

##### (1)『三曲』演奏会データベース

本研究では、『三曲』演奏会データベースを作成した。『三曲』に掲載された1921年から44年までの24年間にわたる演奏会の件数は、重複を除いて約10,800件となった。地域別にみると、沖縄を除く全国、そのほか樺太・台湾・朝鮮・満州などの日本の旧外地、米国、タイでの演奏会が含まれており、当時の日本人の主な活動地域が網羅されていた。

本データベースは、ホームページ(URL: <http://sankyoku.jimdo.com/>)上で公開し、最終年度に作成した報告書に「『三曲』演奏会データベース(抄録)」として掲載した。

##### (2)三曲演奏会の変遷

本研究では、データベースにもとづいて、東京における三曲演奏家のネットワークおよび家元制度、戦争期の三曲演奏会に関して、外地への広がり、内地での芸能統制の影響および大日本三曲協会の活動などを考察した。

最終的に、三曲演奏会を種類別に分類し、戦前の三曲演奏会の変遷を考察した。その結果、1921年から44年までの演奏会の場の変遷を4期(1921年10月～23年8月、23年9月～31年9月、31年10月～39年12月、40年～44年)に分けた。

以上の研究結果を総合し、1921年から44年の『三曲』の年代には、明治期に萌芽がみられた近代的な演奏の場が定着し、会派組織の充実と新音楽の台頭による多様な演奏会の広がり、社会情勢に応じた新たな演奏の場という特色をもつ、公開演奏会の発展の時期と結論づけられた。

##### (3)まとめ

本研究は、音楽史研究において先例の少ない邦楽の演奏会研究であり、研究成果は、近代日本のほかの音楽史研究の面からも注目されるものとなった。比較的研究者の多い近代の洋楽受容研究、および近年研究が進み始めた旧外地の音楽研究の分野からも関心を持たれている。今後は、本研究で作成したデータベース、および三曲演奏会の変遷に関する知見をもとに、三曲を軸にほかの音楽との関連性、地域的・年代的な特徴など、視野を広げつつ掘り下げていくことを計画している。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

福田, 千絵「箏曲家米川琴翁の音楽活動の展開—演奏の場の変遷を通して」『お茶の水女子大学人文科学研究』第8巻: 69-80、2012年3月、査読無。

<http://hdl.handle.net/10083/51532>

福田, 千絵「雑誌『三曲』にみられる十五年戦争期の邦楽演奏会」『お茶の水女子大学人文科学研究』第10巻: 57-67、2014年3月、査読無。

<http://hdl.handle.net/10083/54906>

福田, 千絵「大日本三曲協会の活動: 雑誌『三曲』を通じて」『お茶の水音楽論集』16号: 43-55、2014年3月、査読有。

福田, 千絵「十五年戦争期における大日本三曲協会の演奏の場: 雑誌『三曲』を通して」『お茶の水音楽論集』17号: 43-55、2015年3月、査読有。

福田, 千絵「雑誌『三曲』にみられる三曲演奏会の変遷—一九二一年から一九四四年の

演奏会情報を通して『東洋音楽研究』80号、  
査読有、(2015年8月掲載予定)

[学会発表](計3件)

福田, 千絵「大正後期の東京における三曲  
界のネットワーク形成—演奏の場を通して  
—」(東洋音楽学会第63回全国大会、2012年  
11月11日、東京・立川市：国立音楽大学)

福田, 千絵「十五年戦争期の邦楽演奏会：  
慰問・献金演奏会を通じて」(日本音楽学会  
第64回全国大会、2013年11月2日、東京・  
港区：慶應義塾大学)

福田, 千絵「雑誌『三曲』(1921-1944)の  
演奏会情報にみる邦楽演奏の場の変遷」  
(東洋音楽学会東日本支部第80回定例研究  
会、2014年7月5日、東京・台東区：東京  
藝術大学)

[その他]

・報告書『近代日本の伝統音楽における演奏  
の場についての実証的研究：箏曲演奏会を中  
心に』

・ホームページ

<http://sankyoku.jimdo.com/>

・データベース

『三曲』演奏会データベース(上記報告書お  
よびホームページに掲載)

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

福田 千絵 (FUKUDA, Chie)

お茶の水女子大学文教育学部非常勤講師

研究者番号：10345415

### (2)研究分担者なし

### (3)連携研究者なし